

「透析患者さんの語りの会」 10 年を振り返って

医療法人財団はまゆう会新王子病院

○中川悦子、末次顕宰、河野由季、杉 昌宏、中山桂祐
大谷麻岐、椎葉奈緒美、市丸喜一郎、「語りの会」

当法人の透析患者に日頃の思いを語っていただきたく企画した「透析患者さんの語りの会」（以下、「語りの会」）は、平成 20 年 11 月以来、現在までに延べ 132 名の語りを収録した。

当初「語りの会」は、透析患者が自発的に自分の病状からはじまる人生体験を語るにより、各自の悩みや解決法をデータベース化し、患者や職員にフィードバックすることを目的として始められた。しかし、語りの会を重ねるごとに、患者が自分の言葉で辛い喪失体験と生き直しの物語を語るとは、語り手のアイデンティティー（自己同一性）を確立する手立てとなるのではないか、また科学的根拠に基づく医療をサイエンスとするならば、物語的医療に繋がる「語りの会」はアートとしての意味を持ち、医療を進めていく両輪の一方を担うのではないだろうか考えるようになった。これまでこの会を続けられた要因は、解釈を控えた傾聴を旨とする「語りの会」が、患者自らの言葉で人生を語ることによって辛い喪失体験を解消していくとともに、患者と医療者双方にとって人生の意味を模索する有意義な共同作業場になっているからである。

今回その双方の思いが結実し『浜風に吹かれたハマユウの花たち 透析患者さんの喪失と再生の物語』を上梓した。